

平成28年度全国学力・学習状況調査 学力・学習状況充実プラン

【小学校版】

1 国語の課題解決に向けて

- (1) 小学校国語の傾向・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) 小学校国語各設問の内容・結果と対応する学年・・・・・・ 2
- (3) 小学校国語の個別の課題と改善の方向性・・・・・・・・ 3
- (4) 中学校国語の傾向（参考）・・・・・・・・・・・・ 4

2 算数の課題解決に向けて

- (1) 小学校算数の傾向・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- (2) 小学校算数各設問の内容・結果と対応する学年・・・・・・ 6
- (3) 小学校算数の個別の課題と改善の方向性・・・・・・・・ 8
- (4) 中学校数学の傾向（参考）・・・・・・・・・・・・ 9

3 授業アドバイスシート・・・・・・・・・・・・ 10

※ 授業改善のための一例である。

愛知県教育委員会義務教育課

平成28年11月

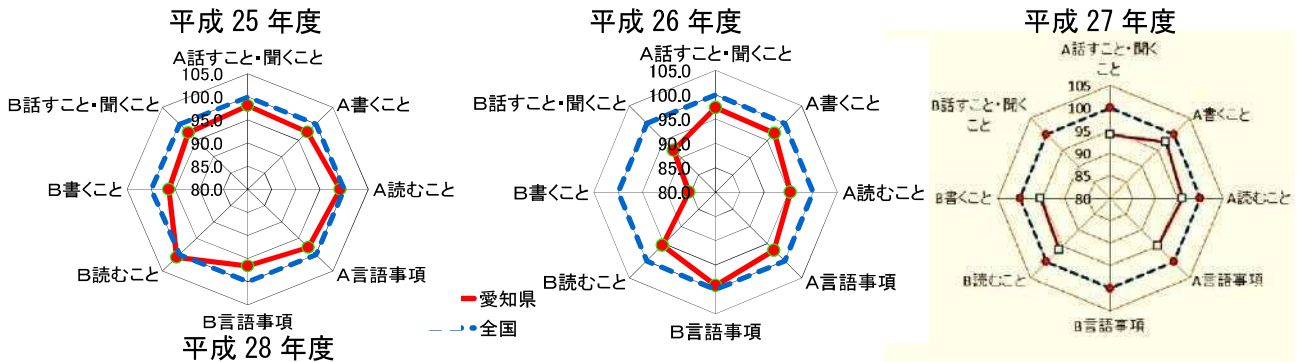


1 国語の課題解決に向けて

(1) 小学校国語の傾向 平均正答率 A問題: 県 71.4%(国 72.9%) B問題: 県 56.0%(国 57.8%)

ア 領域・評価観点・解答形式別で見た傾向

＜全国を基準(100)とした比較＞



※ 「言語事項」は「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

- A・B問題共に、全国との差が昨年度より縮まった。
- 問題形式別では、記述式の正答率が改善した。
- △ A問題、B問題ともに全国より低い。
- △ A問題の「話すこと・聞くこと」「書くこと」、B問題の「書くこと」が全国を2ポイント以上低く課題がある。

＜領域等・評価の観点・問題形式ごとの全国平均正答率との差＞(%)

年度・調査区分		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
		A知識	B活用	A知識	B活用	A知識	B活用	A知識	B活用
教科全体		-1.5	-0.8	-2.4	-3.1	-3.4	-2.4	-1.5	-1.8
領域等	話すこと・聞くこと	-0.8	-1.7	-1.9	-4.0	-3.1	-	-2.7	-1.7
	書くこと	-1.3	-1.6	-2.1	-5.0	-2.1	-2.7	-2.4	-2.4
	読むこと	-0.5	0.4	-3.2	-2.6	-2.2	-2.6	-1.0	-1.4
	言語事項	-1.4	-2.2	-2.3	-0.6	-3.8	-	-1.2	-
評価の観点	① 国語への関心・意欲・態度	-1.3	-1.2	-	-5.0	-	-4.0	-	-2.8
	② 話す・聞く能力	-0.8	-1.7	-1.9	-4.0	-3.1	-	-2.7	-1.7
	③ 書く能力	-1.3	-1.6	-2.1	-5.0	-2.1	-2.7	-2.4	-2.4
	④ 読む能力	-0.5	0.4	-3.2	-2.6	-2.2	-2.6	-1.0	-1.4
	⑤ 言語についての知識・理解・技能	-1.4	-2.2	-2.3	-0.6	-3.8	-	-1.2	-
問題形式	選択式	-0.9	-1.0	-2.6	-2.0	-2.8	-1.2	-1.6	-1.2
	短答式	-1.8	-0.5	-2.3	-2.5	-4.1	-1.0	-1.4	-
	記述式	-1.3	-1.2	-	-5.0	-	-4.0	-	-2.8

イ 無解答率から見た傾向（正答率が60%未満で、無解答率が10%以上の設問）(%)

設問番号	観点	形式	正答率	無解答率	設問番号	観点	形式	正答率	無解答率
A 8-3	◎	短答	52.9	20.4	A 8-2	◎	短答	43.2	13.8
B 3三	◎◎◎	記述	50.4	13.1					

無解答率の平均値はA問題 6.1%（全国 5.3%、27年度は 5.1%）、B問題 5.6%（全国 4.6%、27年度は 7.5%）であった。正答率が60%未満で無解答率が10%以上の設問数は3問で、短答式の設問番号A 8-3が無解答率20.4%（全国20%）であった。

(2) 小学校国語各設問の内容・結果と対応する学年等

調査区分	設問番号	問題の内容	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				正答率(%)	愛知・全国	対応する教科書のページ
				話す・聞く	書く	読む	言語事項			
国語A	1	漢字の読み書き	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む・書く				5・6 (1)ウ (ア)			
	2	全校集会で歌う歌を決めるために、どのように話し合っているのか、話合いの説明として適切なものを選択する	目的や意図に応じて、収集した情報を関係付けながら話し合う	5・6 ア				76.5	-2.7	光村 ◎ P. 190 ◎ P. 215 東書 ◎ P. 143, P. 212 ◎ P. 129, P. 186
	3	ルール説明の表現について助言した内容として適切なものを選択する	書き手の表現の仕方をよりよくするために助言する		5・6 カ			64.8	-2.6	光村 ◎ P. 104, P. 149 ◎ P. 88 東書 ◎ P. 236 ◎ P. 176
	4	委員会を紹介するパンフレットを作るため、追加の取材をした理由として適切なものを選択する	目的や意図に応じて、書く事柄を整理する		5・6 ア			76	-2.2	光村 ◎ P. 230 ◎ P. 190 東書 ◎ P. 26 ◎ P. 28, P. 206
	5	公園案内図とパンフレットにある表とを関係付けて読み、希望に合うものを選択する	目的に応じて、図と表とを関係付けて読む			5・6 ウ		92.8	-0.3	光村 ◎ P. 178 ◎ P. 136, P. 180 東書 ◎ P. 31, P. 201 ◎ P. 33, P. 61
	6	『おばさんの飛行機』を読んで、登場人物の人物像を説明するために、根拠となる表現として適切なものを選択する	登場人物の人物像について、複数の叙述を基にして捉える			3・4 ウ		62.1	-1.8	光村 ◎ 上P. 62, 下P. 8, P. 104 ◎ 上P. 12, P. 66, P. 68, 下P. 70 東書 ◎ 上P. 55, 下P. 9 ◎ 上P. 49, 下P. 9, P. 129
	7アイ	毛筆で書いた(一)と(二)を書き直した際、注意した点として適切なものを選択する(永久)	用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決める				5・6 (2)ア	81.3	0.1	
	8	ローマ字の読み書き	ローマ字を読む・書く				3・4 (1)ウ (ア)			光村 ◎ 上P. 122, 下P. 93 東書 ◎ 上P. 123 ◎ 上P. 152
国語B	1一	スーパーマーケットの店長へのインタビューメモを作成した際の工夫した点として当てはまらないものを選択する	目的に応じて、質問したいことを整理する	5・6 エ				51.1	-0.7	光村 ◎ P. 63 ◎ P. 10 東書 ◎ P. 42, P. 212 ◎ P. 44, P. 186
	1二	スーパーマーケットの店長への質問の意図として適切なものを選択する	質問の意図を捉える	5・6 エ				49.1	-2	光村 ◎ P. 63 ◎ P. 10 東書 ◎ P. 42, P. 212 ◎ P. 44, P. 186
	1三	スーパーマーケットの店長へのインタビューメモを基にして、話の展開に沿った質問を書く	話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する	5・6 エ	5・6 ウ			47.8	-2.6	光村 ◎ P. 63 ◎ P. 88, P. 104 ◎ P. 10 ◎ P. 190 東書 ◎ P. 42, P. 212 ◎ P. 194 ◎ P. 44, P. 186 ◎ P. 28, P. 118
	2一	「早ね早起き」活動の成果について、〈図1〉の結果を基に書いた内容として適切なものを選択する	グラフを基に、分かったことを的確に書く		5・6 エ			41.9	-1.5	光村 ◎ P. 149 東書 ◎ P. 98 ◎ P. 90 ◎ P. 149
	2二(1)	「早ね早起き」活動の課題について、〈図2〉の結果を基に書く	目的や意図に応じて、グラフを基に、自分の考えを書く		5・6 エ			49.1	-2.3	光村
	2二(2)	「早ね早起き」活動の課題に対する解決方法について、〈表2〉の結果を基に書く			5・6 エ			60.1	-4.1	東書 ◎ P. 98 ◎ P. 90
	2三	「早ね早起き」活動の報告文で課題を取り上げた効果として適切なものを選択する	活動報告文において、課題を取り上げた効果を捉える		5・6 イ			56.5	-1.8	光村 ◎ P. 88 ◎ P. 78, P. 92 東書 ◎ P. 132, P. 194 ◎ P. 90, P. 118, P. 206
	3一	「パン職人」に関する本を選んだ目的の説明として適切なものを選択する	目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む			5・6 カ		76	-1.2	光村 ◎ P. 70, P. 157 ◎ P. 54 東書 ◎ P. 22, P. 86, P. 143, P. 165 ◎ P. 24, P. 80, P. 129, P. 151
	3二	「パン職人」に関する複数の資料の内容を関係付けてまとめたものとして適切なものを選択する	目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫する			5・6 イ		77.3	-0.6	光村 ◎ P. 36 東書 ◎ P. 65 ◎ P. 61
	3三	「パン職人」について、紹介したい内容をまとめて書く	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む		5・6 ウ	5・6 ウ		50.4	-2.5	光村 ◎ P. 178 ◎ P. 136, P. 180 東書 ◎ P. 31, P. 201 ◎ P. 33, P. 61

※ 伝国... 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

※ 設問と関係の深い題材の開始ページ (○ 数字は学年)

(3) 小学校国語の個別の課題と改善の方向性

全国学力・学習状況調査の分析から改善のための方向性をまとめました。以下のポイントを参考にして、各市町村及び学校における課題の改善策を具体的に立案しましょう。また、別添の授業アドバイスシート等も活用して、授業改善を図りましょう。

1 日常で活用する力をつける漢字学習の取組を工夫しよう

- 漢字の書き取りにおいて、依然として平均正答率は全国より低くなっています。文脈に合わせて、漢字を正しく書けるようにすることは、愛知県が抱える大きな課題の一つです。
しかし、機械的に繰り返し書くだけの練習では、子供の意欲も低くなり、漢字に対して苦手意識が表れ定着しづらいこともあります。楽しみながら漢字に触れる場を設定し、子どもたちが主体的に漢字学習に取り組むような指導に努めましょう。

<漢字学習の取組例> → P15～P18 授業アドバイスシート小学校国語⑥ 参照

- 「画要素かるた」
- 「漢字カード（部首）」「漢字パズル」

2 書く活動を取り入れよう

- 「授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」と答えた児童は、64.5%、(全国 67.0%) と全国に比べ少ないという結果が出ました。また、「感想文や説明文を難しいと思う」と答えた児童は、63.6% (全国 60.4%)、「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思う」と答えた児童は、57.5% (全国 54.8%) でした。
「解答を文章で書く問題について、最後まで解答を書こうと努力したか」の問いでは、「最後まで努力した」は71.9% (全国 75.1%) と全国に比べ、低い状況があります。愛知県の児童は、「書く活動」に対して、やや苦手意識をもっていると考えられます。

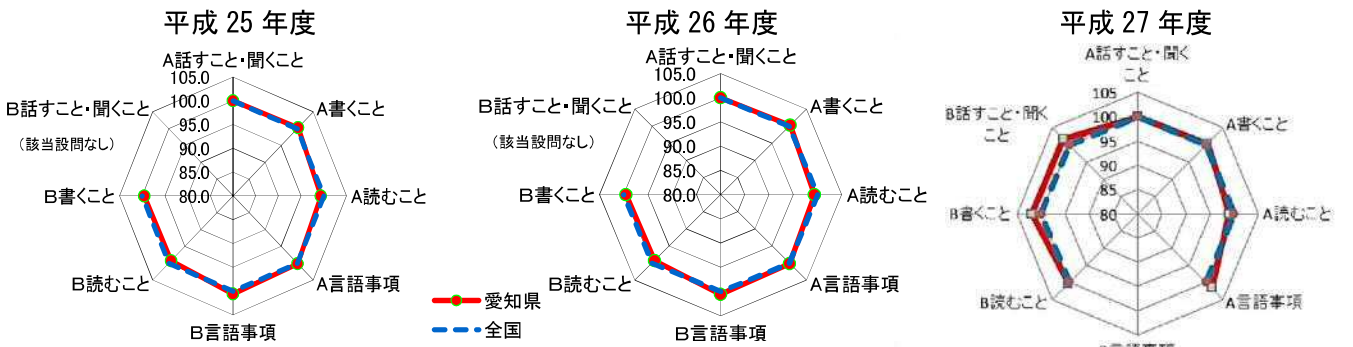
児童の苦手意識を減らすために

- 書くことに抵抗感をなくす取組
 - ① 量的な工夫
国語の授業に限らず、普段から書く活動を多く取り入れる。(例：短文づくり、1行日記、3行感想、条件<字数、キーワード、時間等>提示をして書かせる)
- 書く内容の質を高める取組
 - ② 質的な工夫
書き出しの仕方、書き方の手順やモデル文の提示など、文章構成の枠組みなど、基本的な書き方を指導する。続いて、事実と引用の区別、根拠を明確にした文章など、段階に応じて、文章内容の質を高めることが必要です。
それらの考えをまとめ、互いの考えを学級で共有する機会をもちましょう。

(4) 中学校国語の傾向 平均正答率 A問題: 県 75.5%(国 75.6%) B問題: 県 66.4%(国 66.5%)

ア 領域・評価観点・解答形式別で見た傾向

〈全国を基準(100)とした比較〉



※ 「言語事項」は、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

- A問題とB問題ともにほぼ全国と同程度である。
- 「言語事項」の現代仮名遣いに直す問題は全国より3ポイント以上高い。
- △ A問題においては、「書くこと」が全国を下回っており、なじみのない漢字や語句の設問の正答率が低く課題がある。
- △ B問題においては、「読むこと」の領域で、情報の収集方法について書く設問や根拠を明確にして自分の考えを書く設問の正答率が低く、課題がある。

〈領域等・評価の観点・問題形式ごとの全国平均正答率との差〉 (%)

全国の平均正答率との差 (%)		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
		A知識	B活用	A知識	B活用	A知識	B活用	A知識	B活用
教科全体の平均正答率		-0.1	-0.3	-0.2	0.5	0.6	0.5	-0.1	-0.1
領域等	話すこと・聞くこと	0.0	/	-0.5	/	0.0	1.3	-0.4	/
	書くこと	0.2	-0.3	-0.1	0.3	0.2	0.7	-1.4	0.2
	読むこと	-0.5	-0.5	-0.9	0.1	-0.8	0.2	0.0	-0.1
	言語事項	0.1	0.4	-0.1	0.7	1.2	/	0.1	/
評価の観点	① 国語への関心・意欲・態度	/	-0.3	/	0.3	/	0.7	/	0.2
	② 話す・聞く能力	0.0	/	-0.5	/	0.0	1.3	-0.4	/
	③ 書く能力	0.2	-0.3	-0.1	0.3	0.2	0.7	-1.4	0.2
	④ 読む能力	-0.5	-0.5	-0.9	0.1	-0.8	0.2	0.0	-0.1
	⑤ 言語についての知識・理解・技能	0.1	0.4	-0.1	0.7	1.2	/	0.1	/
問題形式	選択式	-0.3	-0.5	-0.2	0.6	0.3	0.5	-0.2	-0.3
	短答式	0.4	0.5	-0.2	/	1.1	/	-0.1	-0.2
	記述式	/	-0.3	/	0.3	/	0.7	/	0.2

イ 無解答率から見た傾向 (平均正答率が60%未満で、無解答率が10%以上の設問) (%)

設問番号	観点	形式	平均正答率	無解答率	設問番号	観点	形式	平均正答率	無解答率
B3三	①②④	記述	58.1	24.0	A9-2	⑤	短答	24.8	11.1

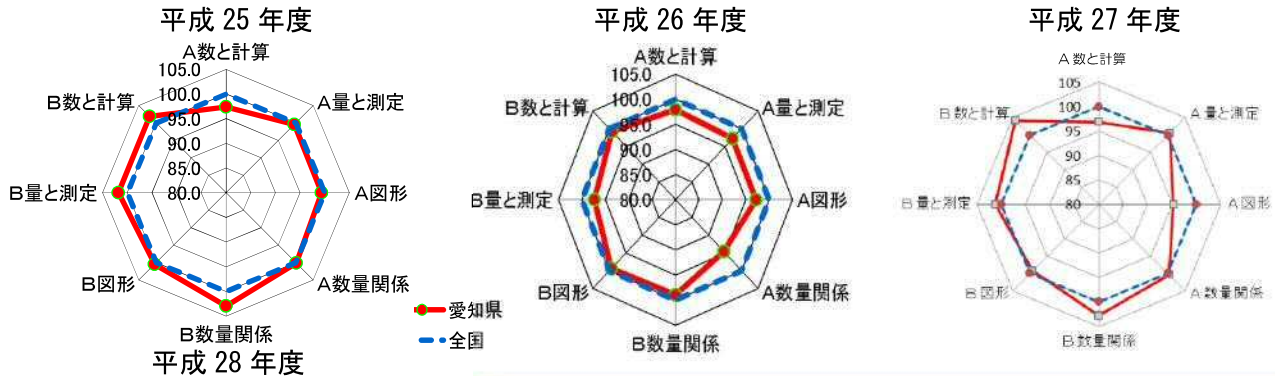
無解答率の平均値はA問題2.0% (全国2.0%、27年度2.6%)、B問題4.5% (全国4.4%、27年度2.2%)であった。無解答率はA問題では、改善傾向にある。B問題でB3三において20%以上であった。平均正答率が60%未満で無解答率が10%以上の設問数は昨年より1問増加し2問あった。

2 算数の課題解決に向けて

(1) 小学校算数の傾向 平均正答率 A問題: 県 76.0%(国 77.6%) B問題: 県 46.4%(国 47.2%)

ア 領域・評価観点・解答形式別で見た傾向

<全国を基準(100)とした比較>



- A問題の「数と計算」において、全国との差が縮まり改善が見られる。
- 昨年度全国との差が最も大きかったA問題の「図形」では、若干ではあるが差が縮まった。
- △ A問題の「量と測定」は全国を大きく下回っており、課題がある。
- △ A・B問題とも、記述式の問題に課題があり、無解答率は全国よりやや高い。

<領域等・評価の観点・問題形式ごとの全国平均正答率との差> (%)

全国の平均正答率との差(%)		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
		A知識	B活用	A知識	B活用	A知識	B活用	A知識	B活用
教科全体の正答率		-1.0	1.1	-2.3	-0.8	-1.8	0.7	-1.6	-0.8
領域	① 数と計算	-2.1	0.9	-1.7	-0.5	-2.6	1.8	-0.3	-1.8
	② 量と測定	-0.3	1.0	-2.1	-1.5	0.4	0.5	-4.2	-0.5
	③ 図形	-0.5	0.4	-2.0	-0.4	-3.0	-0.3	-2.6	-0.7
	④ 数量関係	0.1	1.6	-4.4	-0.6	0.3	1.2	-2.5	-0.9
評価観点	数学的な考え方		1.3		-0.9		1.3		-0.6
	数量や図形についての表現・処理	-2.7	0.5	-2.3	-0.1	-0.4	-0.3	-0.9	-1.8
	数量や図形についての知識・理解	0.3	0.8	-2.4	-1.6	-2.8	-1.1	-1.9	-1.0
問題形式	選択式	0.8	0.8	-2.3	-1.3	-3.2	0.3	-2.4	-0.7
	短答式	-2.2	1.3	-2.3	0.0	-1.1	0.4	-1.3	-1.3
	記述式		1.1		-1.1		1.2		-0.6

イ 無解答率から見た傾向(平均正答率が60%未満で、無解答率が10%以上の設問)(%)

設問番号	領域	形式	正答率	無解答率	設問番号	領域	形式	正答率	無解答率
B2(3)	①	記述	14.5	20.5	B5(1)	① ② ③ ④	記述	5.8	19.2
B3(2)	①	記述	36.0	19.4	B4(3)	①	記述	25.5	14.5

無解答率の平均値はA問題 2.3%(全国 1.8%、27年度 2.0%)、B問題 8.2%(全国 7.4%、27年度 9.7%)であった。平均正答率が60%未満で無解答率が10%以上の設問数は4問(昨年6問)で、全て記述式の問題であった。

(2) 小学校算数各設問の内容・結果と対応する学年等

【A問題】

調査区分	設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				正答率(%)	愛知-全国	対応する教科書の学年とページ
				数と計算	量と測定	図形	数量関係			
算数A	1(1)	$\square \div 0$ 、8の商の大きさについて、正しいものを選ぶ	除数が1より小さいとき、商が被除数より大きくなることを理解している	5A (3) アイ				65.6	0.8	◎ P. 58
	1(2)	2. 1 \div 0. 7を、除数が整数になるように工夫して計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く	除数と被除数に同じ数をかけても商は変わらないことを理解している	4A (3)エ 5A (3) イウ				72.4	3.9	◎ 下P. 57 ◎ P. 54
	1(3)	小数の除法の結果を、乗法を用いて確かめるとき、当てはまる数値の組み合わせを書く	除法における計算の確かめの方法を理解している	3A (4)イ 4A (3)エ 5A (3) イウ				85.5	-2.4	◎ 上P. 106 ◎ 下P. 50 ◎ P. 57
	2(1)	$905 - 8$ を計算する	繰り下がりのある減法の計算をすることができる	3A (2)ア				90.0	-0.9	◎ 上P. 60
	2(2)	$4. 65 + 0. 3$ を計算する	末尾の位のそろっていない小数の加法の計算をすることができる	4A (5)イ				71.8	-5.3	◎ 上P. 89
	2(3)	$18 \div 0. 9$ を計算する	小数の除法の計算をすることができる	5A (3)イ				81.0	3.3	◎ P. 50
	2(4)	$(2 \div 9) \times 3$ を計算する	乗数が整数である場合の分数の乗法の計算をし、約分することができる	5A (4) ウカ				86.6	-0.4	◎ P. 152
	3(1)	二つの数の大小関係を表す不等号を書く	不等号を理解している	2A (1)イ 3A (1)				95.3	-1.4	◎ 上P. 74 ◎ 上P. 74
	3(2)	7. 1, 7. 7, 0 1の中で一番小さい数と、一番大きい数を書く	数の大小関係を理解している	4A (5)ア				72.0	-2.1	◎ 上P. 88
	4	$8m^2$ に14人座っているシートについて、 $1m^2$ 当たりの人数を求める式を書く	単位量当たりの大きさの求め方を理解している		5B (4)ア			68.9	-3.1	◎ P. 146
	5	三角形の底辺に対応する高さを選ぶ	三角形の底辺と高さの関係について理解している		5B (1)ア			76.6	-5.4	◎ P. 127
	6	4枚の三角定規でつくることのできる形を選ぶ	図形の構成要素に着目して、図形を構成することができる			1C (1) 2C (1)イ 3C (1) アイ 4C (1)イ		78.5	-1.1	◎ P. 96 ◎ 下P. 52 ◎ 下P. 11 ◎ 上P. 70
	7	直方体において、示された面に垂直な面を選ぶ	直方体における面と面の位置関係を理解している			4C (2) アイ		74.0	-4.0	◎ 下P. 94
	8	テープ全体の長さを基にしたときの赤い部分の長さの割合が、一番大きいものを選ぶ	全体の大きさに対する部分の大きさを表す割合の意味について理解している				5D (3)	72.5	-1.9	◎ P. 174
9(1)	前に10人、後ろに19人並んでいることを基に、列に並んでいる全体の人数を求める式と答えを書く	示された場面を適切に読み取り、全体の人数を求める式に表すことができる	1A (1)イ 1A (2)ア			1D (1)	82.0	1.8	◎ P. 80 ◎ P. 116 ◎ P. 121	
9(2)	定員と乗っている人数の割合を、百分率を用いた図に表すとき、当てはまる数値の組み合わせを書く	1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解している				5D (3)	43.6	-7.3	◎ P. 174	

【B問題】

算数B	1 (1)	1辺が9 cmの正方形の縦と横の長さを変えたときの面積を求める式と答えとして、ふさわしい数値の組み合わせを書く	示された条件を基にほかの正方形について検討し、同じきまりが成り立つかを調べることができる	3A (3) アイ	4B (1)イ			92.3	-0.3	㊦ 下P. 19 ㊦ 下P. 7
	1 (2)	正方形の縦の長さを2 cm短くし、横の長さを2 cm長くすると面積が4 cm ² 小さくなることの説明を書く	示された説明を解釈し、用いられている考えを別の場面に適用して、その説明を記述できる		4B (1) アイ			46.3	1.1	㊦ 下P. 7
	2 (1)	ハードルとハードルの間が5 mのコースの、スタート地点から4台目のハードルを、巻き尺の何mのところに置けばよいか書く	ハードルの数とインターバルの数の関係を式に表し、4台目のハードルの位置を求めることができる				3D (2)ア 4D (2)ア	57.0	0.8	㊦ 下P. 94 ㊦ 上P. 94
	2 (2)	40 mハードル走の目標のタイムを求める式に8、1と4を当てはめて、まなみさんの目標のタイムを求める式と答えを書く	示された式に数値を当てはめて、目標のタイムを求めることができる	3A (5)イ 5A (3)ア			4D (2)ア	46.0	-4.5	㊦ 下P. 79 ㊦ 上P. 94 ㊦ P. 37
	2 (3)	目標のタイムを求める式の中の0.4や0.3が表す意味を書く	示された式の中の数値の意味を解釈し、それを記述できる	3A (5)イ 5A (3)ア				14.5	-1.1	㊦ 下P. 79 ㊦ P. 37
	3 (1)	三つの式について、それぞれの式が何を計算しているかの説明文を選ぶ	乗法や除法の式の意味を解釈することができる	2A (3)ア 3A (4)ア 4A (5)ウ				61.3	-1.3	㊦ 下P. 5 ㊦ 上P. 17 ㊦ 下P. 51
	3 (2)	縦39 cm、横54 cmの長方形の厚紙から、1辺9 cmの正方形を24個切り取ることができるわけを書く	縦にかくことができる正方形の数を求め、24個の正方形をかくことができる理由を記述できる	2A (3)ア 3A (4)ア				36.0	-2.4	㊦ 下P. 5 ㊦ 上P. 17
	3 (3)	1辺が9 cmの正方形に内接する円をかくために、コンパスの鉛筆の先を合わせる位置を選ぶ	正方形に内接する円の半径について理解している				3C (1)ウ 5C (1)ア	75.8	-0.7	㊦ 上P. 36 ㊦ P. 189
	4 (1)	学校ごとの1人当たりの本の貸出冊数を求めるために、学校ごとの貸出冊数の合計のほかに調べる必要のある事柄を選ぶ	単位量当たりの大きさを求めるために、ほかに必要な情報を判断し、特定することができる		5B (4)ア		3D (3)	46.6	-1.7	㊦ 下P. 65 ㊦ P. 166
	4 (2)	示された二つの表だけでは判断できないものを選ぶ	示された事柄について、二つの表を基に読み取ることができない事柄を特定することができる				3D (3)	71.0	0.3	㊦ 下P. 71
	4 (3)	A小学校とB小学校の図書委員が表したグラフを見比べて読みとった事柄として正しくない事柄について、正しくないわけを書く	グラフから貸出冊数を読み取り、それを根拠に、示された事柄が正しくない理由を記述できる				4D (4)イ	25.5	0.6	㊦ 上P. 43
	5 (1)	示された形をつくることのできることを説明する式の意味を、数や演算の表す内容に着目して書く	示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述できる	3A (4)ア	4B (2) アイ	3C (1)ア 5C (1) アウ	3D (1)	5.8	-1.1	㊦ 上P. 17 ㊦ 下P. 3 ㊦ 上P. 25 ㊦ 上P. 10 ㊦ P. 189
	5 (2)	示された四角形を並べてできる図形を選ぶ	図形を構成する角の大きさを基に、四角形を並べてできる形を判断することができる		4B (2) アイ	3C (1)イ 5C (1) アウ		25.1	-0.3	㊦ 下P. 8 ㊦ 上P. 10 ㊦ P. 189

※ 設問と関係の深い単元の開始ページ (○ 数字は学年)

(3) 小学校算数の個別の課題と改善の方向性

全国学力・学習状況調査の分析から改善のための方向性をまとめました。以下のポイントを参考にして、各市町村及び学校における課題の改善策を具体的に立案しましょう。また、別添の授業アドバイスシート等も活用して、授業改善を図りましょう。

1 言語活動の充実を図る中で、名称・用語、公式や決まりを活用する場を大切にしよう

- ・ 児童の多くは、公式や決まりそのものを覚えるだけでなく、そのわけを理解したり、活用したりすることの大切さに気づいているようです。こうした児童の実態を踏まえ、児童の思考力・判断力・表現力等を高めるために、言語活動の充実を図る中で、次のようなことに留意したいです。

<言語活動を充実させる場の設定例>

- ・ 学習指導要領で扱われている名称・用語の意味を押さえるとともに、三角形の面積における「底辺」「高さ」のように、結び付きの強い用語の関係性を適切にとらえる場を設ける。
- ・ 既習の公式や決まりを自分の考えの根拠に積極的に用いる態度を養う。
- ・ 問題を解くにあたり、必要な公式や決まりを判断・選択する場を設ける。

2 具体物を用いた活動を工夫して、直線や平面の位置関係をイメージする力を養おう

- ・ 本年度のA問題には、直方体のある面に対して垂直な面を全て選ぶ設問（A[7]）がありました（正答率 県：74.0% 全国：78.0%）。この設問に対し、本県の児童は、平行な面を解答したり、平行な面を含めて解答したりする誤答（県：18.5% 全国：15.7%）が比較的多く見られました。立体図形、それを構成する直線や面を頭の中でイメージできる力を養うために、次のようなことに留意したいです。

<図形指導のポイント例> 小学校4年 単元名「直方体と立方体」

- ・ 実際の直方体に三角定規を当て、面と面の垂直や平行を確認する場を設ける。
- ・ 向かい合う面同士が同色の直方体、アクリル製の直方体やかぞえ棒で組んだ直方体など、特性のある直方体を提示し、面や辺（直線）の位置関係をイメージできるよう支援する。
- ・ 直方体に触れて考えたことを、直方体の見取図でフィードバックする機会をもつ。

3 小数の計算や計算の順序についての理解の定着を図ろう

- ・ 本年度、一部改善が見られたものの、本県の児童が全国と比べ、小数の計算に関する問題の正答率が低い傾向が続いています。また、本年度のB問題には、40m走のタイムと示された式を基に、40mハードル走の目標タイムを算出するという設問（B2）がありました。この設問に対し、本県の児童は、 $8.1+0.4\times 4$ と立式できたものの、34（秒）と誤答する割合（県：18.1% 全国：15.1%）が非常に多く見られました。小数の計算とともに、計算の順序を適切に理解し、正しく計算する力を養うために、次のようなことに留意したいです。

<小数の計算のポイント例> 小学校3年 単元名「小数」

- ・ 具体例として、できるだけ身近な長さやかさの事例を想起させるようにする。
- ・ 提示した小数は、0.1や0.01がいくつ分なのかをしっかりと意識させる。

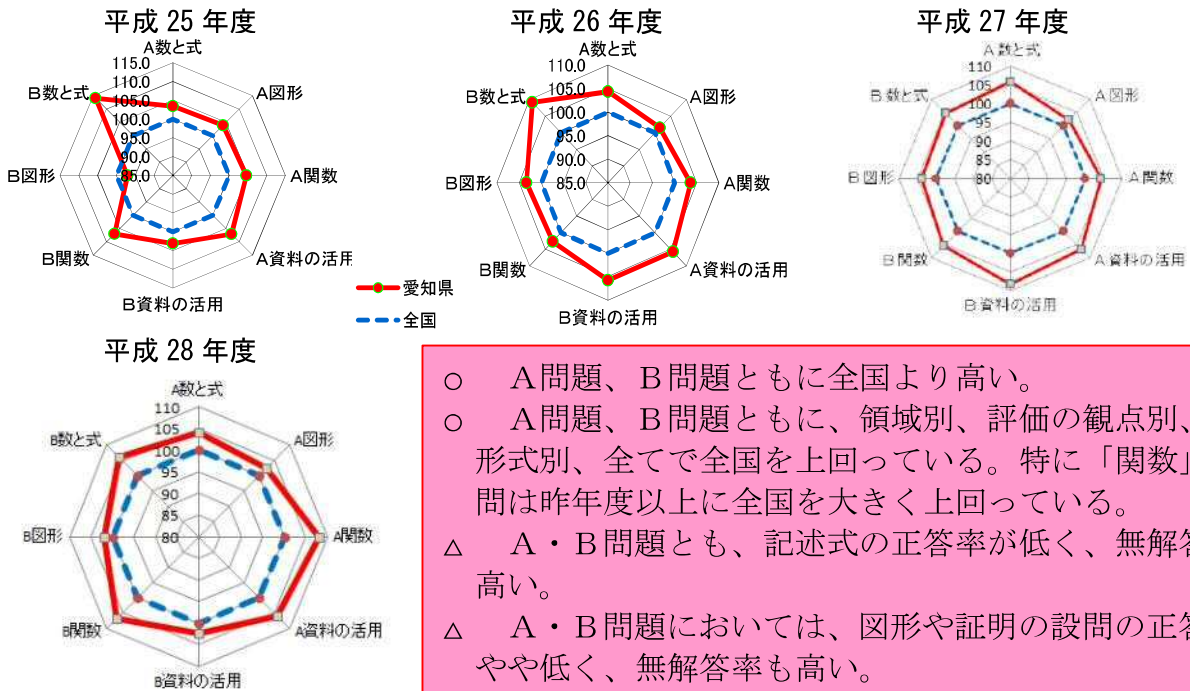
<計算の順序のポイント例> 小学校4年 単元名「式と計算の順じょ」

- ・ 計算の決まりをよりどころとして、誤答例を修正する活動を取り入れる。
- ・ 四則を混合したり、（ ）を使ったりして立式する文章題を考える活動を取り入れる。

(4) 中学校数学の傾向 平均正答率 A問題: 県 64.9%(国 62.2%) B問題: 県 46.5%(国 44.1%)

ア 領域・評価観点・解答形式別で見た傾向

〈全国を基準(100)とした比較〉※平成22・24年度は平均正答率の中間値で換算した。



- A問題、B問題ともに全国より高い。
- A問題、B問題ともに、領域別、評価の観点別、問題形式別、全てで全国を上回っている。特に「関数」の設問は昨年度以上に全国を大きく上回っている。
- △ A・B問題とも、記述式の正答率が低く、無解答率も高い。
- △ A・B問題においては、図形や証明の設問の正答率がやや低く、無解答率も高い。

〈領域・評価の観点・問題形式ごとの全国の平均正答率との差〉 (%)

全国の平均正答率との差 (%)		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
		A知識	B活用	A知識	B活用	A知識	B活用	A知識	B活用
教科全体の平均正答率		2.6	3.0	2.3	2.7	2.8	2.2	2.7	2.4
領域	① 数と式	2.5	5.9	3.4	5.2	4.0	2.9	2.8	3.1
	② 図形	2.5	-1.3	1.0	2.0	1.3	1.5	1.6	0.6
	③ 関数	2.7	2.8	2.1	1.7	2.6	1.7	4.1	2.8
	④ 資料の活用	3.3	1.3	3.4	3.2	4.3	2.6	3.4	1.0
評価の観点	数学的な見方や考え方		2.4		2.8		1.9		
	数学的な技能	2.9	6.5	3.4		4.1	3.4	3.2	2.3
	数量や図形などについての知識・理解	2.4	2.9	1.5	0.8	1.6		2.3	2.5
問題形式	選択式	2.2	2.0	1.6	0.7	2.2	1.2	1.6	2.2
	短答式	3.1	4.7	3.0	3.6	3.5	2.7	3.5	2.7
	記述式		2.3		2.6		2.2		2.3

イ 無解答率から見た傾向 (正答率が60%未満で、無解答率が10%以上の設問) (%)

番号	領域	形式	正答率	無解答率	番号	領域	形式	正答率	無解答率
B 5 (2)	②	短答	31.5	33.6	B 6 (2)	②	記述	18.1	37.6
B 4 (2)	②	記述	39.4	28.2	B 4 (1)	②	記述	28.3	25.9
B 1 (2)	①	短答	37.1	17.5	B 5 (1)	②	記述	49.1	17.2
A 10 (2)	②	短答	57.9	19.8	A 10 (3)	②	短答	43.0	17.4

無解答率の平均値はA問題 5.4% (全国 6.0%、27年度 3.0%)、B問題 13.7% (全国 14.4%、27年度 14.6%)であった。A問題については、27年度に比べ無解答率が増加している。平均正答率が60%未満で無解答率が10%以上の設問が15問に増加し、短答式の設問では10問あった。(上記の表には無解答率の高いものから8問を示した。)